


福祉サービス第三者評価結果報告書

事業所名 : コンビフラザ橋本保育園

1 事業所基本事項

フリガナ	コンビプラザハシモトホイクエン
事業所名 (正式名称を記載)	コンビプラザ橋本保育園
事業所住所 最寄駅	〒252-0131 神奈川県相模原市緑区西橋本 5-2-15 オラリオンサイト共用棟 1F 京王線・横浜線・相模線 橋本 駅下車  徒歩 15分
事業所電話番号	042-770-7038
事業所 FAX 番号	042-771-3002
事業所代表者名	役職名施設長 氏名 樋口 悦子
法人名及び 法人代表者名	法人名 コンビウイズ株式会社 法人代表者氏名 代表取締役社長 鈴木 一郎
URL	
e-mail	higuti@combi.co.jp
問合せ対応時間	9:00～18:00

事業所の概要 1

開設年月日	平成 13年 3月 11日
定員数	50名
都市計画法上の用途地域	商業地域
建物構造	鉄筋造り 2階建ての1階
面積	敷地面積 (23,846.54) m ² 延床面積 (297.52) m ²

事業所の概要 2 (職員の概要)

総職員数	名
うち、次の職種に該当する職員数	施設長 (1名) 保育士 (15名) 保健師・看護師 (1名) 栄養士 (4名) その他(事務員等 1名 調理員 0名)

事業所の概要 3 (受入・利用可能サービスの概要)

受入年齢	生後 2カ月～小学校就学未満	
延長保育の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	備考:
休日保育の実施	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	備考:
一時保育の実施	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	備考:
障害児保育の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	備考: 現在対象児無
病後児保育の実施	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	備考:

保育の方針

- ・子どもの健やかな成長を支援(人と環境のかかわりを通して、体験や共同的な活動による保育)
- ・保護者の子育てと就労を支援してワークバランスが図られるようにします。(多様性と柔軟な保育サービスの提供及び見える保育の実施)
- ・園で培った専門的な知識や技術を生かして地域の子育て家庭の支援をします。(親子で遊ぼう、相談活動)
- ・保育の質を高めるために職員の質を高める支援をしていきます(園内外の研修の体系化)

1. 総合コメント

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項）

優れている点：

1) 利用児が少人数であることを活かした保育に取り組んでいる

定員が50人であり少人数であることを活かし、職員が園児一人ひとりとじっくりかかわり、それぞれの個性を大切に受け止め、伸ばす保育を実践している。また、職員全員が全園児のことを把握し、延長保育等の園児にも誰でも対応できる体制を整えている。

2) 発達過程に沿った指導案作りに取り組んでいる

指導案を簡素化することで見やすく分かりやすくし、子どもの成長発達に対応できるようにしている。日々評価反省することにより、子どもへのかかわりを柔軟にし、見通しを持った保育を行っている。また、保護者との信頼関係を第一に考え、保護者の育児に対する姿勢に真摯に向き合っている。いつでも個別の相談にも応じるなど、家庭への支援に取り組んでいる。

3) 子どもの気持ちを受け止め寄り添うことを大切にされた保育を心掛けている

園全体で子どもたちの気持ちを受け止め、寄り添うことを大切にされた丁寧な保育を心掛けている。自分の思いを理解してもらえた経験が友だちや人への思いを育むことを考えると、毎日の小さな場面で、まだ言葉にできない感情や思いを受け止め言葉にしてもらったり、嬉しい気持ちや悔しい気持ちに寄り添ってもらえる経験を積み重ねることができるのは、子どもの情緒の発達の支援に他ならない。

4) 園庭はないが公園や地域の施設を利用するなどの社会性を学ばせる機会を図っている

園庭がないために、外遊びは近くの公園に出かけることを心掛けている。園庭のようにすぐに出て遊ぶことは出来ないが、公園まで友だちと手をつなぎ交通ルールを意識しながら出掛けたり、地域の方と接することで社会性を育む機会にもなっている。また、公園のゴミ拾いをして日頃遊んでいる公園をきれいにする意識を啓蒙したり、行き先によって注意しなければならないことを学ぶ機会も図り、園庭がないという短所を子どもたちに社会性を学ばせる機会になるように努めている。

独自に工夫している点：

1) できることをアピールし地域に存在感を示している

民設民営の保育園であり、その利点を活かしてできることをアピールしている。子育て中の保護者へのサービスと支援のほか、地域の子育て家庭との交流など新たな事業にも取り組み、積極的に地域に存在感を示している。また、子どもたちの体力増進、運動能力をつけるために散歩を有効的に実施しており、一日を通して近隣や距離のある公園に出かけ遊んでいる。また、泥んこ遊びの体験として土粘土を使い、全身を動かす遊びの経験をするなど、園庭がなくとも工夫した保育を実践している。

2) いろいろな角度からの食育に力を入れている

調理を行う栄養士が複数在籍する恵まれた人的環境の中、独自の献立をたて、アレルギー食についても複数の栄養士でダブルチェックを行い、安全で安心できる給食を提供することに注力している。食育活動計画表に基づき食育活動に力を入れ、楽しく食べる、おなかのすく経験をする、食べることに興味を持つことなどを大切にしながら、調理保育、食具の扱い方、食事の姿勢、野菜の皮を利用した染色、触覚で食材を当てる、視覚(影)で食材を当てる、栄養素についてなどのいろいろな角度からの食育を行っている。また、親子参加の行事、クッキングや保育参加などを通し、親子のふれあいの場を多く持っている。当日の子どもの姿、考察・反省についての記録も確認できており、保育士と栄養士との横の連携をとりながら、職員全体で食育への支援を推進している。

3) 指導案の工夫を行い日々の保育への活用を目指している

指導案は計画のみに終わらずに日々の保育の評価反省を行い、方向性を柔軟に持つことを大切にしている。各年齢各クラスが独自にそのクラスに合った方法で指導案を作成し、日々の保育に活用できる指導案を目指している。園での会議は職員会議、乳幼児会議、子ども会議、クラス会議、係担当会議、行事担当会議、園長主任会議、調理スタッフ会議等実施している。また、日常業務に支障のない範囲で話し合いを行い、保育に反映することを大切にしている。ヒヤリハット報告や事故報告等、職員に対し早急に周知するときには緊急にブチ会議を行い徹底を図っている。

改善すべき事項：

1) 地域との取り組みを充実させることが望まれる。

地域支援事業として子育て広場を開設し、誕生会やコンサートなどの行事や絵本の貸し出しなど実施している。今後は地域の子育て家庭への相談等も実施したいとしており、さまざまな場や機会を通じ園の機能や専門性を地域に還元することを期待したい。

2) プライバシー保護についての職員間での意識の確認を期待したい

園内に園児用のトイレは1か所あり、子どもたちは譲り合いながら使用している。トイレの便器の数が少ないことを職員は認識しており、トイレタイム時間をずらすなどの配慮をしてトイレでの混雑を回避している。しかしながらプライバシー保護の視点から捉えると、女児用トイレに扉やカーテンなどが無いことが憂慮される。卒園後には就学する年齢の子どもがいることを考え、トイレを使用する際に扉を閉めて使用する、扉は閉めないで使用するなどを自分で選択できる環境や、人目がある中での利用は恥ずかしいという羞恥心を育てることができる環境整備を早急に願いたい。同様にプライバシー保護という観点から、日々の保育を改めて職員全体で見直す機会を設けることも提唱したい。

評価領域ごとの特記事項

1	人権への配慮	<ul style="list-style-type: none">・各年齢少人数であることから園児一人ひとりのかわりを大切に、気持ちに寄り添い、個性を伸ばす、個々を認めることを大切に保育している。園児に対し保育士は大きな声や激しい口調で話すことはなく、常に穏やかに丁寧一人ひとりと接することを心がけている。・保護者対応は信頼感を築くことから大切に進めており、送迎時、連絡帳、懇談会、個人面談等、保護者の気持ちに寄り添いながら理解することを大切にしている。そのうえでお願いすることや、支援が必要な場合は園長、主任と連携しながら行っている。・虐待等の恐れのある場合は行政との連携のもと、子どもの安全を第一に考え、将来を見据えたり、また保護者を支えることも念頭に慎重に対応することになっている。・日本語のわからない外国籍の保護者に対しては差別することなく丁寧に接することを基本にしている。とくに、心をつなげることに心掛け、ひらがなで伝えたり通訳を介することも念頭に入れ、対応することとしている。・大切な時期の子育ての手伝いができることに感謝し、命を預かっていることを真摯に受け止め、保育することを目指している。
2	利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援	<ul style="list-style-type: none">・保育園と家庭での毎日の子どもの様子の共有手段として連絡ノートやホワイトボード、クラス便り、すくすくカード(子育て安心カード)を使用し、クラスの様子や子どもの成長を丁寧に知らせるようにしている。毎日の送迎時に話をすることや懇談会、個人面談を行うことにより、保護者との関係を深め、信頼関係を築けるようにしている。そのうえで話しやすい雰囲気を作り、相談や子育てについての話ができるようにしている。また、保育参加を実施することで普段の子どもの様子や保育を保護者に見てもらうことで、保育園を知ってもらうようにしている。・異年齢児保育を導入している。3, 4, 5歳児が同じ空間で生活することにより縦のつながりも自然に生まれている。小さい友達に対する思いやりの気持ちや、目上の友達に対するあこがれや尊敬の気持ちが自然体で身につくことを期待している。各年齢が自立に向け、子ども同士がかかわることを大切にしている。・近隣に自然が残る公園も多く、体力をつけるという目的と自然を感じる感性を身につけることを大切にしている。駅にも近いことから、図書館や商業施設、また高校などにも行く機会を設け、生活に密着した保育が展開もできる環境である。・プランターで野菜や花作りを行い、収穫した野菜を給食で食べる経験をし、食への興味につなげている。

		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より小学校との連携も本格的に始まり、就学に向けて子どもも保護者も安心と期待が持てるような情報を提供できる体制を整えている。
3	サービスマネジメントシステムの確立	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートを実施しており、一年間を振り返るとともに、さらに良い保育の提供を目指している。保護者の意見は真摯に受けとめ、次年度の改善につなげている。 ・警備会社の緊急連絡網や掲示板での表示により緊急時の保護者への連絡方法を確保している。防災マニュアルや防犯マニュアル等で非常時の対応は具体化し保護者にも伝えている。毎月の避難訓練はどのようなシチュエーションでも対応できるように実施している。 ・子どもたちが快適、安全に衛生的な園生活が送れるように環境設定を考えている。限られたスペースを有効的に使うことで、遊びの展開を促し、落ち着いた中に楽しい雰囲気で作ることが取れる工夫をしたり、安心して眠れる雰囲気を作る努力をしている。園庭がないことで体力低下にならないように、晴れた日には近隣の公園に散歩に出かけ積極的に体を使う遊びを取り入れ、午後のおやつ後も公園に出かけ、遊ぶなど工夫している。砂場遊びや泥んこ遊びができない状況であるため、土粘土を取り入れ、泥んこに近い状況で遊ぶ工夫をしている。 ・園内2か所にウェブカメラを設置し、保護者がパソコンや携帯電話から子どもの様子を確認できるようにしている。入園当初や登園時、泣いていた日など子どもの姿を確認することで安心してもらっている。 ・苦情や相談などフランクに話せる関係を築くことを第一に考え、話しやすい雰囲気、また個別に話を聴く環境も用意している。相談は、子どものことや保護者についても対応している。
4	地域との交流・連携	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て広場を今年度より開設し、地域の子育て家庭へのアドバイスや保育園を知ってもらう機会として、誕生会やコンサート、絵本の貸し出し等を行っている。まだ参加者は少ないものの参加家庭には丁寧にかかわるようにし、子育てが楽しく、また自信が持てるような配慮と保育園とのつながりを持ってほしいことを伝えている。 ・近隣の県立高校との交流を継続しており、高校3年生の保育者体験、訪問しての交流会を毎年続けている。園児たちは違った環境の中でゲームを楽しみ、自分をアピールする経験となっている。高校生は将来的に保育士志望の生徒が中心となっているため、保育士の仕事を体験する良い機会となっている。保育士を育てるという意味でも大切な時間ととらえている。 ・幼、保、小連携を積極的に行うことで就学に向けて、園児、保護者が少しでも心配がなくなるように、また、園児が小学校や他の保育園・幼稚園の同年齢の子どもとのかかわりを大切にするようにしている。 ・実習生やボランティアについては同意書等の提示のもと積極的に受け入れを行い、来訪者及び保育園ともに成長できるよう努めている。
5	運営上の透明性の確保と継続性	<ul style="list-style-type: none"> ・月案や年間指導計画の評価を行い、結果については運営委員会、懇談会、園内掲示によって保護者に公表している。 ・運営委員会を設置し年2回開催している。園、会社、第三者委員、クラス代表の保護者がメンバーであり、園の現状を伝えたり意見交換を行っている。また、要望などがあれば聴き取り対応している。 ・保育参加、懇談会、行事に多くの保護者が参加しやすいように日程についても配慮し、年間行事予定にて保護者参加の日程は年度の初めに知らせている。とくに、保育参加は保育に保護者も参加してもらい、給食も食べることから好評であり参加率が高い。どの行事も参加率は高く、保護者の積極的なかかわりが見て取れる。
6	職員の資質向上促進	<ul style="list-style-type: none"> ・園児一人ひとりを大切にする保育を実践している。少人数の保育園の良さとして全職員で全園児を保育することを目標としており、クラス担任だけでなく、他クラスの担任も園児のことを把握できるように連携を取っている。そのために、子ども会議を中心に職員同士の情報共有を大切にしている。また、ヒヤリハット報告での気づきを大切にし、対処、改善を常に考えるようにしている。

		<ul style="list-style-type: none">・職員の個人差を補いながらともに成長できるように、園内研修では、毎月各クラスが持ち回りで課題を提案し、司会進行からまとめを行っている。日常保育の中で直接的に考えることができる課題から、視野を広げたものなど工夫が感じられる。・園外研修は本社研修も含め、職員一人が1回以上参加できるようにしている。リフレッシュも含め、新しい情報、また再認識したりすることも多いと思われる。研修で得たことは研修報告にて全職員に回覧するとともに職員会議(全職員参加)で報告している。・今年度より実習生の受け入れを実施する予定であり、職員のスキルアップにつなげたいとしている。・評価制度を導入しており、職員の経験年数や実績、自己評価を主体に能力や実績の評価を実施している。個々の目標を設定し業務にあたることで前向きな保育が実践されることを目的としている。
--	--	---

2. 評価項目に基づく評価の結果

大項目1 保育環境の整備

評価項目に添って、自己評価を行った結果です

大項目1全体（調査確認事項全81事項）を通してのサービスの達成状況	70%
-----------------------------------	-----

大項目1の内容(概要)

1	人権の尊重	子どもや保護者に対する態度や言葉遣い 出生や国籍、性差などによる差別の禁止 子どもの虐待予防や早期発見のための地域の関係機関・団体との連携
2	プライバシー確保	プライバシー確保への配慮 個人情報保護の体制整備
3	家庭と保育園との信頼関係の確立	家庭との連絡、情報交換の体制 家庭の意向・希望の把握
4	苦情解決システム	苦情解決の体制整備
5	環境整備	温度や湿度等の管理 洗剤等の危険物の管理 おもちゃ、遊具等の管理
6	健康管理(感染症対策・救急救命を含む)	体調不良児、けがへの対応 感染症への対応 救急事態発生時の医療機関・家族等との連携
7	危機管理(防災・防犯)	火災や震災等の対応 日常の防災・防犯体制の整備
8	地域の子育て支援	地域内の子育てニーズの把握と支援
9	自己評価と情報開示	自己点検・改善活動の実施 地域への情報提供、情報開示 見学や保育参観の機会の設定
10	職員研修	職員研修の実施 実習生の受入れ、指導

大項目2 保育内容の充実

評価項目ごとに、事業所の取り組みを記載して下さい

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
<p>子どもと保育士とのかかわりにおいて、子どもの情緒の安定をはかることや、順調な発育・発達を促すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの気持ちに寄り添うことを第一に考え、ひとりひとりの寄り添い、抱く、あやすなどスキンシップを基本として子どもの気持ちを受け止める。 ・各年齢、個々の成長発達をきちんと把握したうえで保育計画をたて、興味意欲を大切に育て成長につなげる。 ・リズム遊び、体育遊びを通し運動機能を高めている。歩く、走る、飛ぶなどの基本の動作を繰り返すこと、日常の遊びに取り入れることで発達を促す。3、4、5歳児は体育指導にて基本を学びながらさらに運動能力伸ばしている。 ・絵本や紙芝居、読み聞かせを繰り返す行うことにより、精神的に落ち着き、情緒の安定を図っている。 ・各会議、話し合いにおいて丁寧に子どもについて話し合い、伝えあうことを大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児組では1対1の対応を心掛け、複数担任で連携をとりながら泣いている子には、その子の気持ちを受け止めるなど子どもとしっかりと向き合うことを大切にしている。 ・幼児組は甘えたいときにはそれを受け止めることも大切であるが、甘えの全てを受け止めることがスキンシップだとはしておらず、今しなければならぬことについてはそれを伝えることがその子への支援だとしている。しかしながら、頑張ったということについてはほめることで子どもとのスキンシップをとることに努めている。 ・3～5歳児は合同保育を行っているが、形式上の書類ではなく生かせる指導案や月案であるように努力している。 ・保育の中で「子どもが〇〇したいのだろうな」と考えるのではなく、実際の子どもの目に向け耳を傾け、「向き合う」保育を目指している。 ・子ども会議を保育士・看護師・栄養士などが参加する中で月1回行い、子どもへの対応の仕方や相談などを行い職員間で情報共有、情報の確認などを行い保育の均一化を図っている。
<p>子ども同士のかかわりにおいて、個の違いを認めあうことや他者と自分を大切にすることを育てるようするためのどのような取り組みをしていますか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2歳児の言葉での気持ちのやり取りが難しい時期や個々の主張が強くなる3歳児など、それぞれの時期において友達とのかかわりを通して思いやりや違う考えがあることを知る。それぞれの時期の子どもに寄り添い時には気持ちを代弁することで相手の気持ちを知る機会を多く持ち、子ども同士のかかわりを大切に育てる。 ・異年齢児でのクラス運営の中で、横のつながり、縦のつながりを時に意識する中で、時に自然体のままでお互いの気持ちをぶつけお互いの気持ちを知る。そのやり取りの中でお互いを認め合う存在へと導いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スキンシップを心掛けることによって子どもは手や足など自分の身体を確認して認識していくとして、乳児組は特に保育の中で肌と肌の触れ合いを大切にしている。 ・家族とのスキンシップだけの生活から、保育園に通うことで職員とのスキンシップ、友だちとのスキンシップがとれるようになり、自分より大きな年齢の友だち、自分より小さな友だちともスキンシップがとれるようになるのが保育園の貴重な環境だとしている。 ・長時間保育の子どもは、縦割り保育(合同保育)の時間も長い縦のつながりも強く、年少の子どもは年長児を模倣するという行動により育ちが見られるとのことである。 ・友だちとけんかをする中で度々職員が仲立ちをすることで、子どもは自分の思いを相手に言う、相手の話を聞くという経験値を積み、年長児では職員が介入せずに自分たちだけで解決できる姿を見ることがあるとのことである。
<p>子どもと社会とのかかわりにおいて、人に役立つことの喜びを感じたり、人と関わることの楽しさを味わうことができるように</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当番活動を2歳児クラスの後半より実施。意欲を持って取り組み、当番での役割を楽しんで行っている。 ・植栽活動では水やり、収穫を当番が行うことでみんなの代表でみんなのために行っている満足感を味わい、積極的に活動している。 ・自分のお部屋、ロッカー、お道具箱の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・2歳児後半から5歳児は当番活動があり、給食の配膳だけでなく職員のお手伝いを進んで手伝う姿を確認することができた。 ・毎週木曜日はお掃除の日として、おやつ後に自分のロッカーやかごを整理する時間をとっている。 ・子どもたちはお手伝いが好きで、職員のお手伝いとして布団をたたんだり、小さいクラスの子ども

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
<p>するためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>整頓を通し、また日々の遊びのお片付けの中でみんなできれいにするという楽しみを感じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の公園の清掃、ごみ拾いをすることで地域にも目を向けるきっかけとなっている。 	<p>を起こしてあげるという姿を日常的に見せているとのである。子どもがお手伝いが好きになるには、職員の適切な言葉掛けや配慮がなされていることが必要となることを考えると、日頃から職員が子どもたちの動作や言動に注力していることが伺える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延長保育の時間では全クラス合同になるが、その際には幼児組の子どもは小さいクラスの子どもを手伝ってあげる姿を見せている。 ・年に1回子どもたちもゴミ袋を持参して近くの公園の掃除を行っているが、その掃除を行うとその日だけでなく公園に落ちているゴミに目が向けられるようになり、自分からゴミを拾う姿が確認されているとのことであった。
<p>生活や遊びなどを通して、言葉のやりとりを楽しめるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・穏やかに、丁寧な言葉がけを通して心地よい言葉を知らせている。 ・あいさつや「ありがとう」、「ごめんね」などの言葉を低年齢から大人が手本となることでつたえている。 ・喜怒哀楽の気持ちを言葉や態度で表現できるように素直な表現方法を伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが聞いて心地よい言葉がけや声をするように職員全体で心掛けている。 ・突然身体に触れるのではなく、必ず声掛けをしてから子どもと関わることを心掛けている。たくさんの職員が子どもに声をかけてあげることや、あいさつを交わすことを大切にしている。
<p>生活や遊びなどを通して、話すこと・聞くことが楽しめることや言葉の感覚が豊かになること、自分の伝えたいことが相手に伝わる喜びを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聴いてもらえる安心感、喜びが言葉を発することにつながるということを大切に思い丁寧に聴いて答えることをたいせつにしている。 ・絵本や読み聞かせを多く行い、聞く、見るという経験が正しい表現や言葉を知る機会となり語彙が増える。 ・日常の中で大勢の前で発表する機会を設け、発表会などの行事において自分を表現する機会を設けている。 ・子ども同士の会話を見守ることで言葉でのやり取りが増えることとなり、時には介助に入ることでさらに活発となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの気持ちに寄り添うことで子どもの気持ちに共感できるとしており、その積み重ねにより子どもとの信頼関係を築くことができるとしている。嫌なことは嫌と言って良いのだと伝えることも大切だとして、自己主張ができる子どもを目指している。 ・「今月の絵本」を紹介するコーナーを設けたり、毎週木曜日には絵本の貸し出しをするなどして、子どもたちに絵本に興味をもてるような環境設定をしている。 ・当番の際に大勢の友だちの前で発表する機会があるが、幼児組は3～5歳児の合同保育を行っているため、年少児は年長児の姿を真似たり、年長児は年少児に優しく教えてあげたりする姿が日常的に行われており、互いの育ちあいにつながっている。 ・発表会の際には、保護者などの大勢の大人の前で恥ずかしくても自分の役割を果たすことで責任感を養ったり、自分を表現する機会を図っている。 ・子ども同士の言い合いや物の取り合いの際には、危険がないことを確認しながら職員はすぐには仲裁にはいらぬように配慮している。子どもたちが自分たちだけでお互いの主張をしたり聞いたりすることが大切だとし、見守ることで子どもたちの成長を支援している。仲裁が必要な場面も多く、その場合には互いの気持ちに気づき仲直りできる方向に職員が導いている。しかしながら、時にはけんかをしている子どもの様子を見ていたほかの子どもが仲裁に入り、互いの気持ちに配慮しながら解決させる姿も確認されており、職員が目指している子どもたちの成長した姿と理解する。

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
<p>生活や遊びなどを通して、楽しんで表現することができるようにすることや表現したい気持ちを育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びこめる環境設定を工夫しながら行い、子どもたちのやりたい気持ちを育む。 ・室内、戸外ともに五感を使って遊ぶ工夫をしている。 ・遊びが展開できるように様々な設定を行うとともに、いろいろな経験ができるように保育準備を行う。 ・音楽を聴いたり、歌ったり、リズムに合わせて踊ったり体を動かすことを楽しめるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定保育などの場合は、職員が出した提案に対して子どもから意見が出た場合は、子どもたちの意欲を生かしその意見を尊重するように配慮している。また、上手く言葉にできない年齢の場合では、職員が子どもの遊びの様子を見ながら言葉で子どもの気持ちを代弁することで子どもたちが遊びに集中できるように支援している。また、遊びが広がってきた場合には、随時必要な遊具を加えたり、場所を広げるなどの対応で子どもたちが遊びに集中できるように注力している。 ・乳児組では戸外での場合、風や太陽などの自然を感じる場所から遊びが始まることも多く、聴覚や視覚、触覚などの五感を使った遊びに発展している。 ・乳児組の場合は職員が直接歌うことを心掛けており、それぞれの職員がその場に合った音量で話しかけるように歌う肉声が聞ける環境を大切にしている。 ・おもちゃは一部は保育室に出しているが、多くのおもちゃは廊下側の棚に収納されている。2～5歳児は自由に棚からおもちゃを出して良いことになっており、子どもたちは自分が遊びたいおもちゃを出したり、遊んだあとは同じ場所に片づけることで整理整頓する習慣にもつながっている。
<p>生活や遊びなどを通して、自発的に表現する意欲を育むことやみんなと一緒に表現する喜びを味わえるようにすること、創造的に表現することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆることの興味が持てるような設定を心がけ、子どもたちの興味が持続、展開していけるようにまたのびのびと表現できるように環境設定や声かけを心がけている。 ・制作や絵画では自由な発想の意欲を大切にし、表現することを喜んで行えるようにしている。 ・土粘土やおみこしづくりなど共同制作の機会を多く持ち、意見やアイデアを出し合い話し合うことが自信となるように話し合いの段階から丁寧に進めていく。 ・日常保育の中や発表会、運動会など友達と一つのことをやり遂げる経験を多く味わうことで表現の楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが共同作業をする行事のひとつとして夏まつりのお神輿づくりがあるが、子どもからの発想なども取り入れて楽しみながら共同作業ができるように支援している。 ・共同作業で作品を作る際には積極的に参加できる子だけではなく苦手な子どもも居るが、その際には無理強いすることはせずに、まず制作している友だちの姿を見ていることを促すことにしている。友だちが楽しそうに制作している姿を見て自分から参加する気になったり、作業の中でのその子が関わられそうな作業を勧めることで共同作業に参加できるようになることも多いとのことで、一人ひとりの子どもが共同作業に参加できるように配慮していることが伺える。 ・自分の作品を職員に「見て見て」と見せる子どもは、自分の作品を誇らしく思っていることや自分が頑張ったということを生生ききとして伝えているとして、職員はその思いに共感しその意欲を認めることに注力している。 ・子どもたちは「この子は〇〇が上手」などと友だちの得意なことを認める姿が確認されており、自分を認めてもらう経験を積むことで友だちも認める感性が育っている。 ・自分だけではできなかった子どもでも、「〇〇ちゃんが手伝ってくれた」という発言が聞かれることもあり、自分が苦手なことを手伝ってもらって完成させることができた過程を認める姿が確認されている。 ・土粘土は園庭がなく土遊びができない当園で

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
		は、貴重な遊びとして工夫をして取り入れており、水を含んだ土粘土の感触を手だけではなく、全身で触れて感じることを目指している。
生活や遊びなどを通して、聞く・見るなど感覚の働きを豊かにすることや身体を動かす楽しさを味わうこと、身近なものに対する興味や関心を引き出すためにどのような取り組みをしていますか	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本等の読み聞かせを多く取り入れ、絵本の貸し出しを積極的に行うことで、情緒的安定を図るとともに、表現の豊かさを養うようにしている。 ・天気の良い日は積極的に戸外での活動を取り入れ、体を動かすことはもちろんのこと、自然に目を向け、興味を持ち探索する機会を多く持つことを大切にしている。 ・リズム遊び、手遊び、歌うことなどを日常的に楽しめる環境(物的、人的)をとし、発達に合わせて楽しんでいる。 ・定期的に外部から歌遊びや人形劇など来園してもらうことにより、感覚に響き興味関心を引き出すこととなるように設定している。 ・当番活動や保育士の手伝いなどを積極的に行える場面を設定し、また日時や天気にも興味を持てるように保育の中に取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の紹介コーナーを設けるなど、子どもが絵本に興味をもつような環境作りをしている ・子どもが見たり、経験をしたことをみたくて遊びやごっこ遊びなどで再現しようとする際には、それらに対する関心や要求を叶えられるように職員は遊びの環境整備に努めている。例として拳がったマリリンパの演奏を真似しようと空き箱にゴムをかけ演奏する子どもの姿は、子どもの発想の豊かさを知るだけでなく、それらの遊びを支援する職員の柔軟な対応を知る良い例である。 ・子どもの興味を育むために、子どもの声を拾うことを大切にしている。 ・活動の中にリズム遊びがあるが、リズムに合わせて身体を動かしその姿を友だちの前で披露するという経験をすることで、自分を表現する機会を支援している。
生活や遊びなどを通して、身近な様々なものに対する探索意欲を満足させることや社会や自然の事象や、動植物への興味や関心をもてるようにするためにどのような取り組みをしていますか	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外遊びを積極的に取り入れ、季節、動植物にも興味を持てる働きかけを年齢にあわせて行っている。『なんだろう、どうしてだろう』という疑問を大切に、自発的に聞いたり調べたりできるような働きかけ環境設定を行っている。 ・室内はコーナー遊びや設定保育のなかでひとり一人がのびのびと自己を発揮し、遊びこめる設定をしている。 ・野菜や花をプランターで栽培し、種や苗からそだてている。土づくり、水やりを通し生長を見守るとともに収穫した野菜は給食で食べることにより、収穫の喜びや生長を感じるを大切にしている。花は色水や押し花、また種を取るなど触れることを大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お天気が良ければ公園に出て、幼児組では鬼ごっこなどの身体を使った遊びを心掛けている。 ・乳児組は、公園では探索行動をとることが多いが、職員は子どもたちが安全に集中して探索行動が続けられるように遊びを保障することに注力している。 ・近くにある高校に遊びに行き、高校で飼育している牛や豚、羊などを見たり触れたりすることで、動物と触れ合う機会を図っている。その際には高校生たちが大切に育てている生き物であることも伝え、動物の生態や生き物への理解を得ることに努めている。 ・プランターで夏野菜などを育て毎日の水やりなどを当番が担当することで、植物の生育を見届けたら収穫の喜びを体験させている。
自分から食べようとする意欲を育んだり、排泄をしようとする意欲を育むためにどのような取り組みをしていますか	<ul style="list-style-type: none"> ・おなががすく経験をする、ということ大切にしながら、視覚嗅覚からも食べる意欲を育てることを大切にしている。 ・栄養士、看護師、保育士の連携による食育活動をすすめている。食材に触れたり植栽により育てたりすることで食べることへの興味を促している。また、衛生面、健康面も含めて食べることへの興味を育てている ・食事の時間は楽しい雰囲気の中で食べられるようにしていく。 ・「おいしいね」と感じ、友達や職員と声をかわせる雰囲気を大切にする。 ・個人差があることを念頭に置きながら、対応する。自分からトイレに行く気持ちを育て 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの家庭で食事などの生活リズムは異なるが、保護者と連絡ノートや登降園時に連絡をとることで連携し保育園での生活リズムを作ることに配慮している。 ・園での活動を十分にすることで、お腹が空いて給食を美味しく食べられることを心掛け、喫食時には給食の食材や献立の話をしながらか職員も同じ物を食べることを大切にしている。 ・食べず嫌いもあるので、食材に興味を持てるような言葉掛けを心掛け一口は食べるように促しているが、無理強いはいしていない。新しい献立で1回目の際には食べられなかった子どもも、回数を重ねることで食べられるようになることも多いとのことである。

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
	<p>ながら、ほめることで自信をつけていく。失敗したときは不快感を共感し、次につなげていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しを立てて食べられることをねらいに、時間内に食事を完食するとスタンプカードにスタンプを押してもらえるようにしている。時間を意識させ完食を促すことは特に年長児は就学を迎えるにあたり大切であるが、食事をするのが苦手な子どもや好き嫌が多い子どもへの配慮にも期待したい。 ・トイレトレーニングは、排尿間隔が長くなりおむつが濡れていないことが増えてくるタイミングを観察して、午睡後にお丸に座らせることから始めている。その際には保護者にも伝え、家庭と保育園での連携を図っている。
<p>身の回りのことを自分でしようとする意欲を育むことや基本的な生活習慣を身につけること、食事や休息の大切さを理解することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成長、発達に即したかわりを大切にしながら、援助、見守りをひとりひとりに対し考えながら行っている。月齢や年齢で考えず、個々に対応を考えられるようにしている。 ・個人差や家庭環境の違いを十分把握したうえでの対応を大切に、やりたい気持ちを大切に育て、達成感を十分に味わえるようにしている。 ・毎日の食事の時間に、また遊びの中でも食べることの楽しさ、おいしいと感じること、おなかですいたという感覚を大切に伝えている。 ・読み聞かせや BGM 湿度温度採光など気持ちよく休息をとれるようにしている。 ・自分の持ち物が分かるように環境を整え、個々に対応をしている。保護者にも使いやすい環境を整えるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの意欲を大切にしたいとしており、子どもがやりたくないと思っていることを強制するのではなく、やりたいという気持ちにさせることを優先させる保育を目指している。 ・3歳児は5歳児の姿を見て、自分もやりたいという気持ちを持つ姿をみせることがあるが、その際にはその気持ちを支援するように配慮している。 ・年齢に沿わせる意欲より、子どもが「やりたいと思った時がチャンス」としており、やる気を育てて大事に見守る保育を心掛けている。 ・午睡については、眠れない子は身体を横にして休めることも必要だとしている。 ・年長児は1月からは就学に向けて午睡をしていない。2歳児の部屋で静かに過ごしたり、図書館や公園に出かけて公共機関を利用することで社会でのルールなどを学ぶ機会を図っている。

大項目3 保育園の特徴

評価項目ごとに事業所の取り組みを記載して下さい

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
<p>子どもの豊かな心と身体をはぐむための特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢保育を行うことで異年齢での交流が自然と生まれ、互いに思いやる気持ちを育てている。また、あこがれの気持ちから、個々のやる気とつながるように対応している。 ・さまざまな行事や外部から歌や人形劇などに来園してもらい、直接触れることで感性を豊かにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3～5歳児は体育指導を毎週金曜日に行い、身体づくり、マット運動、鉄棒、跳び箱、バルーンなどを行っている。 ・体育指導をしている幼児組を小さな子どもたちは憧れのまなざしで見守り、自由遊びの中で真似をして子どもたちの姿も確認されている。「3歳児になったらやろうね」という言葉を掛けているが、子どもたちには自分が大きくなったら体操をやりたいという気持ちを醸成させる魅力がある取り組みと思われる。 ・マリンバ演奏を見た後に廃材を利用して楽器を作って遊ぶ姿が見られたとのことで、目の前で実際に演奏する姿や実際の楽器の音を感じたことから生まれた遊びと思われる。子どもの姿が実演に触れる経験が感性を育む機会だと伝えている。
<p>保育環境に特別な配慮を必要とする子ども(長時間保育、障害児保育、乳児保育、外国籍園児)の保育に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の立地的に8割以上が長時間の保育となっている。安心できる場、ほっとできる場、自己を発揮できる場であるように、家庭的な雰囲気大切にしている。また保護者にとっても安心できる場であるように環境設定を大切にしている。 ・乳児に関しては、特に環境を大切に、ひとりひとりの生活リズムを基本とした保育から徐々に保育園リズムになっていけるように個々の対応を大切にしている。 ・個別の支援計画、検討会等職員同士の連携を大切に、また保護者支援も大切に対応していく。 ・言葉や生活の違いなど尊重しながら子どものためにとということも理解していただけるよう信頼関係の構築に努めることから慎重に進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間保育の対象となっている子どもも多く、年齢が違う子どもが合同保育になる時間帯で一緒に過ごすことになるので、けがをさせることがないように安全に1日の終わりをゆったりと過ごせることを心掛けている。 ・子どもの心身の発達に不安を感じている保護者には、巡回相談や就学移行相談などで療育相談を受けることを勧めたり、保護者の悩みに耳を傾けるなどの保護者の支援にも配慮している。 ・要支援の子どもについては、巡回指導の専門医にその子に必要なかわり方や支援の仕方を相談することで、その子が持っている力を引き出すことに職員全体でベクトルを合わせることに注力している。 ・要支援児にかかわらず、子どもが自分を認めてもらえたという経験を積ませる支援を心掛けている。
<p>健康管理に特別な配慮を必要とする子ども(アレルギー疾患をもつ園児、乳児保育、病後時保育など)の保育に関しての特徴的な取り組み(アレルギー食対応、個別食、離乳食など)について説明してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士、看護師、栄養士の連携を図り、個別対応を基本に、共通理解を深め、対象児が過ごしやすい環境を整えている。 ・食物アレルギーの対象児については相模原市の生活指導管理票のもと、医師、行政としっかりとつながりを持ちながら対応している。代替え食、除去食にて日々の給食は対応。保育士、栄養士、看護師が連携を図り、食事の環境設定、テーブル配置、タオル等の使用にも配慮している。 ・離乳食はできるだけ個別対応ができるようにしている。発達状況、健康状況を把握し保護者との共通理解のもとすすめている。 ・登園時の触視診を大切にしながら、個々の日常の健康状態をしっかりと把握することに努め、体調の変化に気づけるようにしている。また保護者との連絡は送迎時の会話、連絡ノート等により常にしっかりと取るようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医師による「食物アレルギー生活管理指導表」を提出してもらうことで、保護者と連携してアレルギー児への給食の除去食や代替食を提供している。 ・ダイアアップなどの体調による薬の預かりが必要な場合は「おくすり依頼書」を提出してもらうことで預薬にも対応している。 ・エピペンやダイアアップなどの緊急時に使用する薬の保管場所は非常勤の職員も含め職員全体に周知されており、定期的に使用についての練習も行っている。 ・発作の際にアレルギーによる発作なのか、または救急車の要請が必要な状態であるかの判断ができるチェック表を常備している。 ・給食室では、除去食については当日一人が専任で担当し、最初に調理することで食材が混入する危険を回避している。 ・調理室からアレルギー食を配給する際には、チェック表に調理した職員、受け取った職員の名前を

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
		<p>記入して確認をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー児には専用のトレーに名前の札がついており、担任が直接配膳している。 ・乳児クラスは子どもがおもちゃを口にすることも多いため、毎日午睡の時間におもちゃを拭いてアレルギーをアレルギー児が誤って口にしないように配慮している。
食に関する特徴的な取り組みについて説明してください	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養士と保育士が話作成した食育計画に基づき、年齢、発達にあった食育を行っている。 ・お腹がすくことを感じるところから食事を楽しくする、おいしく食べるために、調理保育、植栽、マナーや衛生面についても日々の保育の中で伝えている。 ・親子クッキングを通して親子の触れ合いの中でも食の大切さを伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育活動計画表に基づき、多くの食育活動を行い当日の子どもの姿や調理スタッフの考察、反省、担任の意見なども記録している。 ・食育活動は、「野菜の皮で染色」「視覚で食材当て」「触覚で食材当て」「野菜クイズ」「食器や箸の扱い方」「栄養素について」など多岐に渡っている。 ・調理室では美味しい安全な食材を提供することに注力しており、放射能検査を行っている食材もある。また食材については、国産のものを使用することを心掛けている。 ・アレルギー食もあるため、調理室では互いに声を掛け合い、平等に仕事を進められるように配慮しており、情報提供を心掛け情報を共有できる環境を目指している。 ・幼児組には当番があり、食育として育てている野菜の水やりや収穫、水洗いなどを行っている。収穫した野菜は調理室で給食の食材として調理され給食として配給されている。自分たちで育てた野菜がどのような形で給食の献立に利用されているかも子どもたちの楽しみとなっている。 ・保育参加の際に、親子クッキングとして「うどん」「ピザ」などを作り給食として喫食している。
家庭とのコミュニケーションに関する特徴的な取り組みについて説明してください	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に会話するように努めることから信頼関係が生まれるということを大切にしている。 ・懇談会、個人面談、保育参加、保護者参加の行事にてコミュニケーションを深め、保育に参加していただくことで、子どもの成長を共に喜べる関係であるようにしている。 ・保護者ひとりひとりと信頼関係を築けるよう努力し、積極的に時には距離を置くなど工夫しながら保護者の思いに共感し、また援助できるように努めている。 ・連絡ノート、ホワイトボード、園便り、クラス便り、またすくすくカードなどにより、保育園での様子を伝え、また保育園について理解していただくよう努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とのコミュニケーションを重視しており普段の会話を大切にしている。 ・懇談会や個人面談などのほか保護者参加の行事も多く話を聴く機会は多い。 ・コミュニケーションツールとして、連絡帳や玄関のホワイトボード、園便りやクラス便りのほかすくすくカード(子育て安心カード)などで園児の様子を伝えている。 ・保護者アンケートでは「園との十分な意見交換ができていますか」との設問に対し、回答者の89%ができていますと答えている。良好なコミュニケーションがうかがえる。

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
<p>地域の子育て支援に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>・子育て広場を今年度より開始。保育園を知ってもらうことから始め、絵本の貸し出し、育児相談、行事への参加など積極的に行っている。今後はさらに具体的に子育てについて気軽に地域の方と話し合える場を作っていきたいと考えている。</p>	<p>・地域の子育て家庭に保育園を知ってもらう機会として、誕生会やコンサートなど行事への招待、絵本の貸し出し等を行っている。近隣にポスターを貼るなどしているが、まだ参加者はすくない。参加家庭には丁寧にかかわるようにしており、今後の取り組みに期待したい。</p>